

# 【先-1】 本八戸駅通り再整備を核とした内丸地区にぎわい創出 事業調査 (対象箇所:青森県八戸市)

【実施主体】八戸市

平成27年度

## 調査目的・これまでの経緯

・八戸市中心市街地の北部に位置する内丸地区は、歴史的資源が多く残る地域であるが、歩行空間の整備や歴史的資源の活用が十分とは言い難い状況である。  
 ・内丸地区のメインストリートである、JR本八戸駅から中心部を結ぶ本八戸駅通りは、現在はかつてのにぎわいが失われているが、都市計画道路の整備を契機として、「人を中心とした道」であるコミュニティ道路として整備する予定である。  
 ・そこで、本八戸駅通り地区まちづくり協議会と連携し、内丸地区全体の良好な道路環境整備・にぎわいづくり・活性化の実現に向け、道路等公共空間の維持・管理を含めた柔軟かつ持続的なまちづくりを可能とする官民連携スキームの構築を検討した。

## 施設の概要



■都市計画道路沼館三日町線3・5・1号整備事業(県)  
(L=700m, W=18m)  
県と連携し沿道のまちづくりと一体となった事業推進

■現道コミュニティ道路整備  
(L=180m, W=9.0m)  
中心市街地の玄関口にふさわしい歩いて楽しい“通りづくり”→車の速度を抑制する道路整備/電線地中化/交通規制の導入/街路灯・休憩施設設置

■ポケットパーク整備  
(A=42m<sup>2</sup>)  
滞留時間の向上を図るため、道路に付随する施設(ポケットパーク等)を整備

官民連携で面的な管理を行うエリア

## 調査結果

### 1. 本八戸通り・内丸地区の現状整理

#### ◇利用状況

- ・通勤・通学を目的とする利用者が約半数を占め、県外客は約3割
- ・地元活動への期待が高い→効果的なにぎわいづくりのイベントや面的な整備・管理運営が必要

#### ◇沿道店舗・地権者等の意見

- ・道路整備を契機としたにぎわい創出への期待
- ・にぎわいづくりに向けての組織強化
- ・交流拠点(居場所)の重要性(地元のニーズあり)

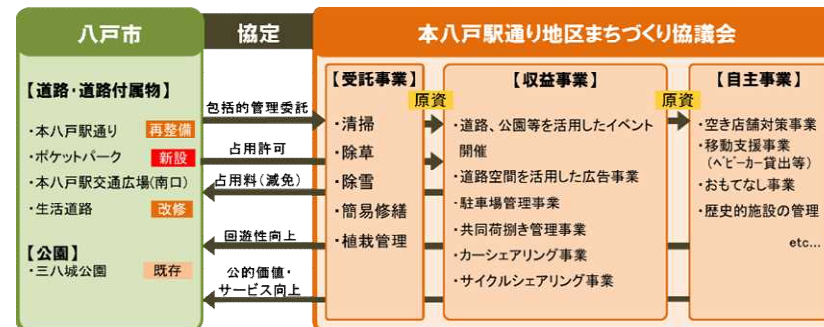
Point : 内丸地区の「面的な管理(道路・沿道環境整備/管理)」と「にぎわい創出」の連動による一体的促進

### 2. 官民連携スキームの提案

#### ◇新たに生まれる公共施設の地元協議会による管理運営

- ・にぎわい創出による収入源の確保

#### ◇内丸地区全体を1つのパークと見立て、新たに生まれる複数の公共施設(コミュニティ道路、ポケットパーク等)を地元協議会が管理・運営を行い、にぎわいの創出を図る(協議会・役員会で協議)



## 今後の展望

### ◇短期的

- ・公共施設の一体的な管理運営スキームを具体化し、行政とまちづくり協議会間で有効な管理協定を締結する。
- ・本八戸駅通り地区まちづくり協議会が自ら収益をあげ、自立・自営・持続できる管理運営スキームを構築し、本八戸駅通りの活性化を図るとともに、さらにはまちづくり団体等と連携しながら、中心市街地の玄関口としてのにぎわい創出を図る。

### ◇中長期的

- ・沿道の活性化に向けて、補助金以外の新たなまちづくり支援策を検討(固定資産税減免の特例措置等)し、空き店舗等利用の促進を図る。
- ・まちづくり協議会の法人化等、組織の充実を図る。